

【柳川市文化芸術推進基本計画に伴うR5年度市内の文化芸術活動の状況について】

■方向性・テーマ		R5年度取り組んだ事業	① 実績	審議会意見	今後の方針
■基本施策			② 課題		
■実行プラン					
◆…新しい取り組み例 ○…既に実施している取り組み		赤…新たに取り組んだ事業 黒…既に取り組んでいる事業			
①柳川らしさの浸透 ～心豊かに暮らせる文化的なまちづくり～					
I-① 文化芸術や文化資源の まちづくりへの活用					
I-① 新たな文化芸術資源の発見・活用		<ul style="list-style-type: none"> ・柳川現代美術計画(吉田重信)(生涯学習課) ・AIR事業たゆたうからたち(調原作)(生涯学習課) ・こぼりーの音楽会(生涯学習課) ・旧戸島家住宅でのさげもん展示(生涯学習課) ・水郷柳河掘割地区まちづくりワーキング(都市計画課) ・旧綿貫家住宅アーティスト・イン・レジデンス事業(生涯学習課) 	<p>①綿貫家住宅を活用した企画展や、野外音楽会など新たな取り組みを3事業行い、多くの来場者があり喜ばれた。</p> <p>②参加者された方からは事業は好評で喜ばれたが、イベントの開催場所が分かりにくかったり、駐車場の問題などがあった。広報等を充実させる必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント会場における駐車場等の場所が分かりづらいため広報を充実させる必要がある。SNSや紙媒体で場所が分かるよう周知し、SNSにしても画像ファイルでの掲載をする等。 ・土地勘がない方でも分かるようにチラシのデザイン等の工夫をすることで分かりやすくなるのでは。 ・今年度のアーティストインレジデンス事業は、地域の方との交流の中で、いろんなつながりやアイデアが生まれよかった。今後も地域の協力を得ながら、まちぐるみで事業が発展できればよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの広報等周知方法において、インターネットを利用したアクセス方法及び情報周知の見直しを行う。 ・暮らしに身近な文化芸術に触れる機会を増やすとともに、文化芸術資源の新たな活用を図る。 ・空き家や遊休地を活用した文化芸術活動できる機会を創出する。 ・文化資源を活用した展覧会、コンサート等を行う。
I-② まちなかで文化芸術に触れる 機会の充実					
I-② まちのあらゆるところで文化芸術に触れる機会の創出		<ul style="list-style-type: none"> ・ゆりり旅での文化や芸術を取り入れた体験やイベント(観光課) ・地域おこし協力隊による駅前スペースの活用(商工・ブランド振興課) 	<p>①ゆりり旅での文化や芸術を取り入れた体験やイベントを行った。また、地域おこし協力隊により、駅前スペースを活用した文化芸術関連のワークショップを行った。</p> <p>②いきなり新規事業に取り組むのはハードルが高いので、既存事業を活用し文化芸術の面で更に充実させた事業に取り組みつつ、新規事業を検討する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人員の関係もあるので生涯学習課だけで全てを行うことに無理はあると感じる。担当部署や観光協会等を巻き込みやすくなる仕組みづくりをすることが求められているのではないかと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係部署と連携し、既存事業のさらなる充実を図る方法を検討する。 ・オープンなスペースで、ロビーコンサートのような、気軽に参加できる文化芸術事業を実施する。 ・市内の商業施設や空き家、公園などの活用を図り、まちなかで実施される文化芸術活動への支援を行う。 ・公園・駅前広場等で実施される文化芸術活動の利用者や予約方法などのさらなる利便化を図る。
②機会づくり ～文化芸術による社会包摂に向けた場づくり～					
2-① 誰もが文化芸術を鑑賞・創造・発表できる機会の創出					
2-①-a 障がいのある人の文化芸術の鑑賞・創造・発表の場の充実		障がい者アートレンタル事業に向けた打合せ(生涯学習課)	<p>①これまで本市としても障がい者に関する文化事業が実施できていなかったため、県が実施している障がい者のアートレンタル事業について、本市でも事業周知のため展示会を実施できないか打ち合わせを行った段階。</p> <p>②上記事業の展示会を行うことにより、貸す側、借りる側に周知を図るため関係課との連携を図る必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アートレンタル事業は、展覧会の開催だけではなく、障がいのある人たちの交流や発表など、何かきっかけの場となればよいと思う。ただ、他団体等と連携していかないと市だけでは大変ではないかと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当部署から障がい者施設等の現状を把握。 ・障がい者アートレンタル事業に向けた取り組みを行う。 ・障がいのある人が文化芸術事業に触れやすくなるよう配慮を促し、現行の障がい者による文化芸術事業の周知を図り、広く市民が来場、交流、発表できるような取り組みを進める。 ・障がい者(児)福祉施設を対象としたアウトリーチ事業を行う。 ・障がいのある人を対象とした鑑賞サポートに取り組む。
2-①-b 高齢者の文化芸術の鑑賞・創造・発表の場の充実		<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェによる文化芸術活動(福祉課) ・地域サロンでの文化芸術活動(福祉課) ・地域ディサービスでの文化芸術活動、敬老会での文化芸術活動(福祉課) ・介護予防の取り組みとして、地域の拠点において文化芸術活動の実施(福祉課) 	<p>①高齢者を対象とした文化芸術活動を地域の拠点において行った。</p> <p>②出向くことができる高齢者の参加にとどまっている。より多くの高齢者の方に文化芸術を届けていくため、高齢者福祉施設等でのアウトリーチ事業を進めていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の入居者の体験や活動の場があればよいと思う。 ・高齢者が文化芸術に触れていく機会を提供してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの高齢者の方に文化芸術を届けていくため、高齢者施設等の現状を把握し、高齢者福祉施設等を対象としたアウトリーチ事業に取り組む。 ・高齢者が文化芸術事業に触れやすくなるよう配慮を促し、高齢者による文化芸術事業の周知を図り、広く高齢者が来場、交流できるような取り組みを進める。
2-①-c 誰もが体験・鑑賞できる環境づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・柳川市総合美術展(生涯学習課) ・北原白秋顕彰短歌大会(生涯学習課) ・市民文化会館でのロビーコンサート(生涯学習課) ・市民文化会館でのストリートピアノ(生涯学習課) ・中央公民館講座(生涯学習課) 	<p>①コロナ前のような通常のスタイルでの既存の文化芸術事業を行った。また、毎月のロビーコンサートでは、リピーターの来場者も増え、多くの来場者があった。</p> <p>②全ての人に情報が行き届いていない。アクセスできるための方法を検討する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文化会館ロビー等には多くの学生が勉強等で利用している。今後、高校生チャレンジなど企画ができれば、勉強しに来るだけでなく何か楽しいことがあると大人になっても来てくれると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存事業の情報収集や提供の方法を見直し、全ての人に情報が行き届き、アクセスできるための方法の検討する。 ・子どもや子育て中の方が文化芸術活動にさらに参加しやすくなるような企画を検討する。 ・文化芸術に対するアクセシビリティ(接しやすさ)に関する調査を行う。

■方向性・テーマ		R5年度取り組んだ事業	①実績	審議会意見	今後の取り組み
■基本施策			②課題		
■実行プラン					
◆…新しい取り組み例 ○…既になに実施している取り組み					
2-② 子どもや子育て中の方の文化芸術の鑑賞・創造・発表の場の充実					
2-② 子どもや子育て中の方の文化芸術の鑑賞・創造・発表の場の充実 ◆幼稚園・保育園、小中学校を対象としたアウトリーチ事業 ◆子育て支援施設を拠点としたアウトリーチ事業 ○子どもと親のための文化芸術活動 ○小中学校の音楽発表会 ○中学校文化連盟による絵画、書道などの展示 ○幼稚園児・保育園児を対象とした演劇鑑賞会 ○小学生を対象とした演劇等鑑賞会 ○児童合唱団 ○白秋祭献詩(献詩の募集、白秋祭式典での表彰、朗読)		・宮島達男氏 時の海ワークショップ(生涯学習課) ・このゆびとまれミニコンサート(生涯学習課) ・suito鉄道広場(生涯学習課) ・小学生の光の鳥展示(生涯学習課) ・子どものためのコンサート(生涯学習課) ・リトミックひろば(生涯学習課) ・ニッ川ウッチング(生涯学習課) ・白秋音楽発表会(学校教育課) ・中学校音楽発表会(学校教育課) ・市民文化会館での中学校文化連盟による絵画、書道などの展示(生涯学習課) ・幼稚園児・保育園児を対象とした演劇鑑賞会(生涯学習課) ・子どもの健やかな成長を願う実行委員会による演劇等鑑賞会(生涯学習課) ・白秋献詩(献詩の募集、白秋祭式典での表彰、朗読)(学校教育課) ・アートひろばやながわイベント(市民団体)	①子どもを対象としたイベントやアウトリーチなど新たな取り組みを5つ行った。どの事業も好評で、参加者から喜んでもらった。また、市民団体主催のイベントにおいては、周知などの面で協力した。 ②参加者された方からは事業は好評で喜ばれたが、どの事業も短期間での実施になったため募集に苦労した。事業周知期間や周知方法が課題。	・一つ一つの事業が単発の事業となっている。数よりも継続的にできそうな事業を今後考えてみてはどうか。学生や親子を対象にするなど。 ・アートの楽しさを知ることが大きな目的ではあるが、学んだことを共有したり発表したりする機会があってもいいのでは。	・イベント内容の充実を図るとともに、事業の周知を早めにスケジュールリングし、事業の着手に取り組む。 ・子ども向けの体験や親子参加型の文化芸術事業の充実を図る。 ・幼稚園・保育園、小中学校、子育て支援施設などでのアウトリーチ事業を行う。このため、学校や芸術家団体へのヒアリング、他自治体での事例、実施ジャンルについて調査を行う。 ・事業を継続的にやっていくための工夫や仕組み作りの検討。
③人づくり ～文化芸術活動がさらに活発になる人づくりと環境づくり～					
3-① 文化芸術活動の担い手の ネットワークと情報基盤整備					
3-①-a 文化芸術活動を行う個人や団体のネットワークの構築 ◆白秋祭などの大規模イベントを契機としたネットワークのための場づくり ○文化芸術活動の担い手同士をつなぐワークショップ		・北原白秋生誕140年記念事業実行委員会の発足(生涯学習課) ・市民参加のワークショップ(生涯学習課)	①市民参加のワークショップにおいて、企業や高校生などが取り組んだ事例紹介を行い、幅を広げた。 ②ネットワークとして、つながりの場を提供するにとどまり、事業立ち上げにまでには至っていない。	・市民参加のワークショップでたくさん意見が出たが、形にならず終わるのがもったいない。ワークショップで出した意見をさらに考える場があり、具現化していく機会があったらよい。 ・文化芸術に関する人材育成をどうやっていくかが課題。市民参加の意見を出し合うワークショップも重要だが、具体化するような場づくりも重要。柳川の文化を自分たちでつくっていくような雰囲気作りができればよい。	・文化芸術のジャンルを超えた活動の担い手同士のネットワークがさらに活発になり、事業が立ち上がるよう連携や融合を図る。
3-①-b 文化芸術活動を行う個人や団体の活動の場の創出 ◆文化施設以外の地域拠点や店舗等での活動を促進する仕組みづくり ◆地域の中で文化芸術の拠点として活用できる場所の集約 ○柳川市民文化協会への活動支援 ○地域の公民館を拠点としたレクリエーション、自主サークル発表会などの充実		・文化協会文化祭(文化協会) ・県民文化祭の実施(文化協会、生涯学習課) ・柳川市民文化協会活動補助金(生涯学習課) ・全国大会出場文化関係激励費助成金(生涯学習課) ・校区公民館での文化芸術活動(生涯学習課)	①文化協会において、日常の活動に対する支援の他、県民文化祭の実施支援を文化協会と市、両者で行った。 文化協会の補助金、全国大会出場における激励費の補助金(13件)。 ②地域の中で文化芸術の拠点として活用できる場所がどこにあるのかの情報が少ない。	・文化協会はコロナ後の会員が減ってしまっ大変な部分はあるが、文化は人が生活していく上で不可欠なものであり、良い文化がある場所には人が集まるため、柳川にもいい文化を広げていければ。	・地域の中で文化芸術の拠点として活用できる場所を集約する。 ・市内で文化芸術活動を行う個人・団体に対し、活動場所の提供など、多面的な支援を行う。 ・文化施設以外の地域拠点や店舗等での活動を促進する仕組みづくりを行う。
3-①-c 文化芸術の担い手とのマッチング支援 ◆文化芸術に特化した人材バンクの作成と活用 ◆活動を始めたい人に対する相談窓口、目安箱の設置 ◆柳川市民文化会館におけるコーディネート機能の充実		人材バンク作成の取組の検討(生涯学習課)	①人材バンクの作成における取組の検討を行った。 ②人材バンクの作成に取組むうえで、他団体における情報等が必要。	・まちのアート派遣事業のような地域の芸術家をコーディネートして地域に派遣する自治体もあり、本市も積極的に活用していく必要があるのでは。	・文化芸術に特化した人材バンクについて、他自治体等からの情報収集し、調査研究を行う。 ・活動を始めたい人に対する相談窓口や目安箱の設置などを行う。 ・文化芸術活動の担い手と受け手をつなぐためのマッチング機能を充実させる。 ・柳川市民文化会館におけるコーディネート機能の充実を図る。 ・地域おこし協力隊や外部人材の活用を図る。
3-② 文化芸術活動を 支える人材の育成					
3-② 文化芸術活動の企画・運営者(団体含む)への支援 ◆柳川市民文化会館やその他の拠点における文化芸術に関する市民提案企画への支援 ◆アートマネジメント人材育成講座 ○市民サポーター制度の充実		・大型鑑賞事業での市民サポーターの活用(生涯学習課) ・アナウンス講座(生涯学習課) ・市民サポーター研修(生涯学習課)	①市民文化会館の市民サポーター研修やアナウンス講座を年数回行い、大型鑑賞事業で活用している。 ②上記研修などの他、市民提案企画への支援について取り組む必要がある。	・人が集まる場所にはイベントのボランティアを望む方もいる。この受け皿を今後長期的に作ったらどうか。	・文化芸術活動を支える人材を育成する。 ・柳川市民文化会館やその他の拠点における文化芸術に関する市民提案企画への支援を行う。 ・アートマネジメント人材育成講座を行う。

■方向性・テーマ		R5年度取り組んだ事業	①実績 ②課題	審議会意見	今後の取り組み
■基本施策					
■実行プラン					
◆…新しい取り組み例 ○…既に実施している取り組み					
④地域ブランディング ～柳川らしさを活用したまちの魅力づくり～					
4-① 文化芸術や文化資源を活用した観光・産業の魅力づくり					
4-① 文化芸術や文化資源を活用した観光・産業の魅力づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・雲龍マンガの制作(生涯学習課) ・高校生企画の芸術スポーツスタンプラリー(生涯学習課) ・うなぎダンスの制作(市民団体) ・出前講座(柳川の歴史を知ろう)、名勝水郷柳河、北原白秋顕彰短歌大会、白秋祭式典、武田千代三郎杯柳川市駅伝競走大会、市民文化会館にてさげもん展示、風流等補助金(生涯学習課) ・北原白秋など(安東省庵、檀一雄、木村緑平、石田昌、長谷健、田中吉政)文人の顕彰活動(市民団体) ・立花宗茂と闇千代大河ドラマ招致委員会による招致活動、川下り(灯り舟、こたつ舟)・雑祭りさげもんめぐり、フィルムコミッションによるロケ対応、ゆるり旅(くもで網、ムツかけなど)、おもてなし大作戦、白秋祭水上パレードにおけるおもてなし、おもてなし市民会議、優しい日本語ツーリズム、掘割を中心とした早朝一斉清掃、掘割と観光の共生のあり方検討委員会、鰻のせいろ蒸しなどの郷土料理の普及、首都圏、関西圏)等物産展PR展示、ブランドパンフレットの作成、水郷柳河の月のフォトコンテスト、レールキッチンちくご・有明花の里(中山大藤まつり、椛島菖蒲園、柳川ひまわり園、梅の木街道など)、(観光課) ・さげもん、柳川まり、蒲池焼などの工芸品の保護、普及、柳川フェアの実施、よかばんも～柳川HP運営、やながわよかもん館プロモーション事業、柳川認定品PR、よかもんまつり(商工・ブランド振興課) 	<p>①既存事業として、各団体や行政などでさまざまな取り組みを行っている。さらに行政の他、高校生や市民団体を主体とした新しい取り組みもできた。</p> <p>②地元の学校や企業、芸術家と協働した観光・産業との取り組みにおいては、各方面での情報収集に努める必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・柳川には様々な多くの文化資源があるため、地元芸術家と協働した新しいブランドの立ち上げ、また新しい観光のあり方の検討は、時間をかけて色々な形で今後考えていく必要がある。 ・柳川の魅力としてフォトコンテストがある。写真が文化と融合しているため、柳川のまちを題材とするイベントをやることで観光にも繋げることができるのではないか。 ・市民団体が制作したうなぎダンスはおもしろい取り組み。市民参加のワークショップから案が出て、市民団体が完成させた完成形である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術や文化資源を観光や産業に活用し、より幅の広い発信を行っていく。 ・地元の学校や企業、芸術家等と協働した新たな観光やブランド振興などのあり方を検討する。
⑤基盤づくり ～文化施設や柳川の資源を活かした土壌づくり～					
5-① 文化施設・資源へのアクセスの向上					
5-① まちなかの文化資源や文化芸術に関するアクセスの充実		<ul style="list-style-type: none"> ・各拠点施設のこてんの案内板の設置(都市計画課) ・全国AIR事業がまとめられたサイトへ旧綿貫家住宅の情報を掲載(生涯学習課) ・市民文化会館のホームページ、フェイスブック、インスタグラム、ツイッター、ラインの活用(生涯学習課) 	<p>①今年度新たな取り組みで各拠点施設のこてんの案内板の設置ができ活用されている。また、文化会館を中心にSNSを活用し情報発信を行っている。</p> <p>②今後さらなる情報発信を行っていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・GISという地図情報を活用した情報発信などの取り組みにおいて、文化芸術も乗り遅れないように。 ・文化会館の市民記者さんたちのSNSの投稿は、ほのぼののしている。今後はアップする時間帯や写真の使い方などの研究をされると更によくなるのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の文化芸術に係るさまざまな資源(人、作品、会場、文化財など)の情報を整理、収集して、活用の促進を図る。 ・SNSでの情報発信の仕方の工夫、研究を行う。 ・地理情報システムの活用を調査する。
5-② 文化施設・資源の適切な維持・保存・活用					
5-② 文化施設・資源の適切な維持・保存・活用		<ul style="list-style-type: none"> ・旧綿貫家住宅の紹介動画作成(市民団体) ・市民文化会館での各種芸術ワークショップ、各庁舎、各施設でのイベント情報等のチラシ設置、各種鑑賞事業、講演、柳川「有明海」なんてん体験隊、子ども会レクレーション(オセロ大会)、おもてなし健康マラソン大会、古文書館にて各種企画展、日記を読む会、古文書解読講座、入門講座、文化財火災想定訓練(生涯学習課) ・三橋町内一斉清掃、大和町ビューティークリーン、塩塚川、沖端沿いでリバークリーン(生活環境課) ・クリーンアップ大作戦(水路課・都市計画課ほか) ・道守活動(都市計画課) ・水まつり(企画課) ・河川浄化啓発ポスター、作文の公募作品展の開催(水路課) ・筑後川、矢部川河川美化「ノーポイ」運動(建設課) 	<p>①生涯学習課だけでなく、他課においてもさまざまな取り組みを行っている。河川においても市民と協働した清掃活動を通して、資源の適切な維持、保存を行っている。</p> <p>②既存事業にとどまらず、今後鑑賞事業の他、体験型、参加型のワークショップなど新しい取り組みを行っていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーンアップの清掃活動において、観光地に近い市民に比べて離れている地域は意識が薄いように感じる。市内全域の市民の意識が高まるような取り組みを考えてみては。 ・柳川には掘割はあるが木陰が少ない。掘割に留まらず木陰も充実することで観光地としての発展に繋がるのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設で実施する鑑賞事業などを充実させるとともに、その他資源を活用し、体験型、参加型のワークショップなど新しい取り組みを行っていく。 ・文化施設・資源をさらに適切に保存、活用し、他団体などと連携した取り組みを行う。それぞれの魅力を向上させ、機能充実を図る。
5-③ 文化芸術に関わる団体・組織の垣根を超えた交流の促進					
5-③ 文化芸術の推進体制の構築		<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術推進ワーキングチーム会議(生涯学習課) ・まちづくりワーキンググループ会議(都市計画課) ・全庁的な出前講座(人事秘書課) 	<p>①庁内ワーキングチーム会議は継続して行った。</p> <p>②庁内ワーキングチームの協議がまだ不十分。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内ワーキングチームの協議を充実したほうがいいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内ワーキングチーム会議を継続する。また連携強化含め、協議の充実を図る。